

どうなった？ 松戸版教育改革

松戸版教育改革によって学校統廃合が行われ、それにより廃校になった学校跡地の活用案のたたき台を、松戸市が9月に公表しました。その概略は下記の通り。

古ヶ崎南小学校	庁舎部分	教育委員会庁舎、地域集会施設 適応指導教室、教員研修施設	20 年度着手 21 年度開設目途
	校庭部分	暫定利用継続	
根木内東小学校	庁舎部分	公文書庫、すぐやる課読所	20 年度内に開設目 途
	校庭部分	暫定利用継続	
新松戸北中学校	庁舎部分	コミュニティ図書館を中心とした施設・ 子育て支援施設・福祉施設・ボランティ ア会議室・食育ファーム・地域集会施 設・美術展示室・体育館	21 年度着手 22 年度開設目途
	校庭部分	売却	
新松戸北小学校	庁舎・校庭	全面売却	新北中に合わせて

- 図書館はどうあるべきか、地域の配置はどうかということを考えないといけない。地域に開放すると言っていた、小金中のパイロットスクールの図書室はどうしたの？ これも新松戸地区。「新松戸地区ばかり！」という声が出てくるだろう。
- 図書館を望む市民の声を意識しているのかもしれないが、もしそうならば、もっと市民と図書館行政についてもっと話し合わなければならない。識者の意見も聞かなければいけない。ただ場所があるから図書館にしますというような安易な考えでは困る。
- 子育て支援の施設はあるけれど、児童館のような施設は考えていない。
- それとやっぱり青年の問題が扱っていますね。
- 地域の市民が入って一緒にプランを練ったら、このような形にはならないでしょうね。
- そもそもこの4つの学校を廃校にしなければいけなかったのでしょうか。
- そこが一番大事な問題ですね。
- これから高齢者をいっぱい抱えていかななくてはいけない。学校をつぶさなくても補修でやっていけるのなら、これから20・30年は深刻になる高齢者問題のために、これらの学校施設をそのまま利用していけばいい。特養とか老人ホームとかは何百人待ちだという実態があると聞きました。戦後すぐの時代には、学校が住居に変わっていた時期が長くあった。母子家庭などのアパートとして学校が使われていた。発想の転換をして思い切ったことをしていかないと、これからの高齢者問題は乗り切っていけない。
- 廃校する時には、跡地のことは考えていないと言っていましたよね。
- 廃校にする時に、その後のプランも市民に示して、市民に了解を得るべきではなかったか。廃校にすることだけ決めて、しばらく検討してからプランを出すというのは、長期的な展望もない。

- いや、廃校にする時に既に今のプランがあったのでしょ。その時から売却しようと思っていたのでしょ。だとしたら、最初から売ると言えばいい。
- 「財政的に厳しいから売却して、こうしたい」と正直に説明すれば、議論はそこから始まる。「絶対反対」だけではない、いろいろな議論が出来たはず。
- 廃校する時は、「売らない」と言っていて、今になって「売る」というのでは、市民を甘く見ているのではないか。面倒くさいことは市民に隠しておこうという感じかな。
- この跡地の問題に地域として市民が取り組んでいるのは、新松戸地域。「旧新松戸北小跡の有効利用を考える会」を立ち上げて、地域住民にアンケートをとったり、市に要望書を出したりしている。
- アンケートでは、「スポーツ施設がほしい」という意見が一番多かったようです。校庭や体育館を利用している団体が多くて、新北小も新北中も両方とも校庭がなくなってしまうということで、とても困るという意見が強いそうです。
- とても大きな問題だと思うのが「避難場所がなくなる」ということ。松戸市は他に避難場所を確保しているのか。
- 7丁目は、地震や水害の時に大きな被害が想定される地域。松戸市のハザードマップでもそれが示されている。だから避難場所の確保という声は強く出ています。
- 学校は文化の中心だけではなく、地域の生活の中心なんです。そういうものとして見直さなくてははいけない。



まちづくりに市民が主体的にどう関わることができるかという問題

- 私も建前としては、学校は地域の中心だと言うけれど、よく考えてみると自分の地域の学校と一切関わりのない生活をしている。学校ももっと地域に根ざした取り組みをしていかないと、なかなか地域の中心にならない。
- フラワーボランティアとして地域の人を入れて花を植えてもらうなんていう安易な取り組みで、地域との関係なんて言っている。
- それは一方的な関係ですよ。学校の中に地域の人が集うような場所と仕掛けが必要。
- 地域コミュニティの場として学校を活用と言っているけど、実際に実現されているかという、社会教育講座室として一般に教室が開放されているぐらい。
- 多くの学校で開放されているけれど、あまり知られていない。校庭や体育館の使用についても広報が十分にされていない。学校開放委員会もいつ開かれるかもあまり周知されていない。
- あれだけのスペースが、平日の昼間しか使われないというのはもったいない。もっと活用できるシステムがあればいいのだけれど。まさに住民の自治の力の問題かな。
- 市の側から言えば、開放すればそれだけ経費もかかるし、人の配置もしなければならぬ。それをどのように住民が提案できるか。
- 古ヶ崎南小の地域の方が、「今、ドッチボールやソフトボールで利用されているけれど、使われていないと学校はどんどん荒れていくばかり。もっと地域に使わせてほしいという声があるのだけれど、窓口がどこなのかははっきりしない」と言っていた。市教委が古ヶ崎南小跡に来ることについては、京葉ガスに莫大な賃借料を払うよりはましとも言っていた。でも、教育委員会が使う部分は改修するのでしょうか。(改修費用は京葉ガスビル

の賃借料をあてるらしい)

- 廃校になった学校の跡地の問題は、今、教育委員会の管轄を離れて総務企画本部政策調整課の学校跡地担当室に移行しています。確かに跡地の問題を考える時、教育だけではなく、地域の中で学校をどう位置づけるかとか、学校を中心にしてどういう地域をつかっていくかとか、まちづくりの問題になっている。幅広い人が幅広い意見をたたかわせないと、地域の人たちで跡地の有効活用案を出すという動きになっていかない。まちづくりに市民が主体的にどう関わることができるかという問題なんだと痛感する。使われなくなった市の公共用地も売却しているらしい。
- 廃校になった学校用地を売却するのも千葉県では初めてらしい。県も高校の統廃合を行っているが、まだ売却しているところはないそうです。松戸でそれをやってしまうと、悪しき前例になってしまう。



今、根木内小は27学級の大規模校になっている

- 今、根木内小は27学級の大規模校になっている。来年は28学級になるんですって。市民集会実行委員会が、適正規模・適正配置について市教委と話しあった時に、「この大規模校をどのように解消するのか」という質問に対して、「根木内小の場合は、40人学級で計算すると24学級以内に収まるので、大規模校という認識はない。だから高木第二小のように学区の変更などの対策を採ることは全く考えていない」と答えました。結局、人口増もある一定の段階を過ぎれば収まっていくから、それまでやり過ごすという感じでした。
- 松戸市の第三次実施計画の中に「大規模校対策として学区の見直しを検討する」という言葉が入っているけど、それは何なのかと聞いたら、「東部地区でどんどん住宅が作られて、今後人口増が見込まれる地域があるので、そこを想定して学区の変更を考えている。今ある学校の学区の変更は全く考えていない」と答えていました。今子どもが通っている学校の学区の変更をするのはとても大変だからやらないと言っていました。
- その根木内小の現実はどうかということ、やはり先生方から聞くとかかなり大変な状況です。一日5時間で週5日ということ、週25時間ですよね。体育の授業は、週2時間あってそのうち1時間が体育館で行う授業。27学級が週1時間体育館授業を行うと、単純計算しても2学級分足りなくなりますね。だから6時間目に体育の授業を設定しなければならなくなったり、雨の日は屋外でできないから体育館でやろうと思っても、体育館は空いていない。今 肥満傾向にある子どもも多いし、子どもたちの生活状況を見てみると、学校の体育はとても大事。でも大規模校の現実、体育の授業を保障するのがとても難しい。

学校選択制について

- 松戸版教育改革のもう一つの大きな施策、学校選択制は5年間のサンセット方式で、5年たったら評価をして、やるかどうかを含めて見直しをするはずだった。今年度が最終年度。
- でも継続するつもりなんでしょう？
- やめる気はないでしょう。市教委は、「今年度入学保護者のアンケートで88.9%が選択

制を良しと答えている」と盛んに言っています。確かに「学校選択制についてどうか」という質問についての回答は、「学校を選べるようになってよかった」というものが88.9%ですが、実際に選択制を利用して学区外の学校に行っているのは、小学校で8.5%、中学校で12.8%、両方合わせて全体で10.4%です。従来の学区の学校へ行った子どもが全体で87%です。平成16年度より選択制利用者は若干増えてはいますが、選択制を利用した人がどういう基準で選んだかという点、3割の人は「通学の距離や時間」と答えています。中学校で部活を基準にした人は約3%。教育活動の内容を基準にした人は全体で1.9%で、平成16年度の3.5%より減っています。

この結果を見ると、それほど選択制を利用して動いているという感じはないですね。でも、風評が立って、新1年生が半分ほど他の学校へ行ってしまった学校もあるということです。

- このアンケート結果を見て、少しホッとしています。学校選択制によって地域がガラガラッと大きく崩れてしまっていないというのは、ある程度歯止めがあったということの効果かと。でも細かく見ていくと、選択で選んでいる人が1%未満でも増えていく傾向があるから、そこを重点的に施策として取られてしまうと危険があると思う。
- 「学校選択制が地域の教育活動に影響を及ぼす」という回答をしている人も多く、
「学校選択制の実施により、学校と保護者の理解・協力が強くなる」と思う人も特に増えていません。
- 学校選択制を利用しているというのも地域差があるのではないのでしょうか。地域によっては、選択制による学校間のばらつきが出てきているかもしれません。
- 第一中はこの3年間、募集定員を上回る希望があって抽選が行われています。受け入れ枠はだんだん少なくなってきたので、倍率は増えていく一方です。
- 今は隣接学区という縛りがかかっていますが、本当にそれが守られているのかどうか。バス通学している子どもたちを見かけるんですよ。
- やはり、申立制で十分対応できるのではないかな。
- 風評が立つと入学者がガクンと減ってしまうことがあるので、学校は風評が立つことを恐れるようになる。部活動の活躍をやたらと宣伝するし。



先生が悲鳴を上げている状況というのは、子どもに大きな影響がある

- 秋田県は「秋田のどこに住んでいても、同じ学力を身につけられることを目指している」と言っています。
- 教育の機会均等ってそういうことですね。フィンランドと同じです。
- そういう取り組みをした結果が1位。それを目指したわけではないですけどね。
- 学力テストの評価はともかくとしても、上位のところは、自治体独自に少人数学級を進めているところが多い。
- 日本の公教育はそういうことをずっと目指してきたわけですよ。明治からずっと。
- それは徴兵制を維持していくための教育だったのですが、底上げすることが全体の力を押し上げる。あるいは均質な学力ということが経済や軍事の力になるということだったのです。
- その当時の産業界の要請だったのかもしれないですね。そのように産業界の要請で教育が動いているから、その要請が変われば今のように変わってしまう。


- 学力テストの結果を平均値で出していますが、みんな同じくらいの平均値なのか、学力差が大きい中の平均値なのか、そこがわからない。
- それが平均値のまやかしですね。学力テストは、一人ひとりの子どもの状況を細かく見ていくためのものではないということです。
- こんな結果が出されると、先生方はもっとアップアップしていくのではないのでしょうか。
- 先生になる人、いるかしら？
- 今、先生の採用は増えていますね。団塊の世代の先生方がみんな定年を迎えますから。学校によっては、20代と50代の先生ばかりになって、30代の先生が極端に少ないようです。先日まなびネットの集会で20代の先生の悩みを聞いたのですが、絶対的な自信が持てないし、先輩の先生からいろいろ教わろうと思ってても時間的な余裕がないし、そんな状況の中で一番苦慮しているのが保護者への対応だということのようです。自分が未熟だから、自分より年上の保護者に対して何も言えないし、保護者からは頼りないと思われているのではないかと不安だし。だから保護者から何か言われると、どう対応してよいのかわからない。
- 自殺した新宿区の若い女性教師は、まさにそういった悩みを抱えていた。自信を持って教師になったのに、保護者からのクレームがついて、それを誰もフォローしてくれなかった。結局自分に能力がないからだといって、自殺してしまった。
- 今なら、まだ経験のある先生と若い先生を組み合わせると対応するということも出来るけれど、そのうち、もっと年配の先生がいなくなってしまう。そうすると、若い先生ばかりになるとそういうサポートもできなくなる。こういう問題をどうするかを考えることの方が重要。
- 現場で教えることの対応がとて遅れている。
- スタッフ派遣というなら、退職した先生を採用して若い先生たちをサポートするように派遣すればいい。そういう対策も採らずに、古ヶ崎南小跡に教師の研修施設を作るなんていっているけど、現場の学校の中でお互いに研修しあうことをしないと、もっともっとひどい状況になるのではないかと。早急に取り組むべき課題だと思う。
- 先生が悲鳴を上げている状況というのは、子どもに大きな影響がある。
- 小規模校の先生たちはホント余裕がない。
- 小規模校はいいという行政の姿勢がないと、先生も加配されないし、保護者は敬遠するし、予算も…。学校規模に関わらない、基本的な人と予算の配置がないとね。
- 小規模校になると専科の先生がいなくなってしまう。一人でも先生が多ければ、一人ひとりの先生にかかる負担は軽くなる。子どもとのコミュニケーションをとる時間も増える。

パイロットスクールより、すべての学校に人の配置を！



- スタッフ派遣については、どの学校もみんな派遣を要請しているらしいのですが、全校一律に派遣しようという考えを市教委は持っていないようです。
- PTAで要請しても来ない。やはり学校がきちんと要請しないと。あまりに先生方の勤務が過密だと、心身ともに疲労して、病休の先生が増えてくる。親も支えきれないし。
- 松戸市教委は、「平等に人を配置するというのは、国・県の方針。それと同じことを松戸がやるのでは、国・県の下請け機関になってしまう。松戸市は松戸市独自の考え方で人

を配置している」と言う。そもそも下請けのようなことばかりしているのに。

- 学校ボランティアとして読み聞かせに入った人が、本の選択から何から勝手にやるんですか？ その時に学校は何もタッチしないんですか？
 - もしかするとそういうことの方が多いかもかもしれませんね。担任の先生も読書ボランティアの人たちが入る時間は、その人たちに任せてしまうということが多いと思います。
 - いわゆる丸投げですか？ そういうお任せでいいのですか？
 - 学校図書館に司書がいて、相談しながら読み聞かせができればもっといいのに。
 - 学校の図書館に専任の司書の先生がいて、その人のリーダーシップの下に、学校の教育内容に即した本を選んでいくなどして、ボランティアスタッフが連携を密にしてやっていくのならいいのですが、専門職の先生もいない、ボランティアスタッフの横のつながりもないという状況では、なぜ学校の中で読み聞かせをするのかということになります。地域でやればいいではないか。
 - 司書の先生を置けば、それで先生が一人増えることになるではないか。
 - 学校と連携を取るということで、親の意見も反映されていく。
 - 教科で今何をやっているかということ踏まえることも必要なこと。それとの連携が蜜であればいい。教育的配慮が必要。
 - 先生とコミュニケーションをとって、子どもの学校での生活の様子を把握するというのも必要ではないか。例えば、いじめの問題で悩んでいるとか、家庭のことで悩んでいるのだとか、そういう状況をつかんだら、それに配慮した内容を用意する。
 - それをしなければ、単なる自己満足で終わってしまう。
 - 先生の側からすれば、今いる人数では一人ひとりの先生の負担が大きいから、ボランティアに丸投げしなくなってしまおう。人を使って、うまく話し合っていていこうとしたら、自分一人でやるより時間も労力もかかる。先生を増やさないと解決しない。これからどんどん人件費を削減したがっているから、地域の人を活用して、ボランティアをどんどん使っていくだろう。
- 

- ウーン。何か一つこれだけは松戸の教育でいい施策というのはないですかね？
- 何も手をつけなくてほしい！ こねくり返して、簡単なことをかえって複雑にしている。
- 教育改革アクションプランも5年で終了。この次いったい何を出してくるのか。出されてからまたアタフタとするのは嫌なのだけれど。
- 学校統廃合でお金を使うのなら、先生の数を増やしてほしい。
- パイロットスクールより、すべての学校に人の配置を！
- それぞれの学校に均等に、人数に見合った先生の配置をして、すべての子どもたちに均質の学力をつけてほしい。
- 現場にいる先生や校長先生は、子どもたちの学力を均等に底上げしていくことが、どんなに楽なことかということを知っているはず。そういうことを市教委に言える校長先生が果たしているのか。